

林野庁 九州森林管理局

屋久島森林生態系保全センター

令和 5 年度 **年報**



花之江河 ドローン撮影

内容

I 概要.....	1
II 森林生態系保全・保護.....	2
1. 森林生態系モニタリング.....	2
(1) 屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリング調査.....	2
(2) 湿原の植生状況モニタリング調査.....	4
2. 森林生態系保全.....	7
(1) 植生保護.....	7
(2) 森林パトロール.....	9
(3) ヤクシカ対策.....	11
3. 気象モニタリング.....	12
4. 屋久杉巨樹・著名木調査.....	14
III 普及教育・森林空間利用.....	16
1. 森林環境教育の実施.....	16
(1) 屋久島高等学校.....	16
(2) 大分舞鶴高等学校（スーパーサイエンスハイスクール指定）スキルアップ研修.....	16
(3) 小中学校森林教室.....	16
(4) インターンシップ.....	18
2. 屋久島自然休養林.....	18
(1) 森林環境整備推進協力金の実施.....	18
(2) 利用者数.....	18
IV その他.....	20
1. 入林の手続き状況.....	20
(1) 入林届件数.....	20
(2) 調査研究の入林目的（保護林以外も含む）.....	20
2. 広報活動.....	23
(1) 広報誌「洋上アルプス」の発行.....	23
(2) ホームページの更新.....	25

各種調査・業務の詳細はホームページに順次掲載予定ですのでぜひご覧ください

九州森林管理局 HP > 森林管理局の案内 > 森林管理署等の概要 > 屋久島森林生態系
保全センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



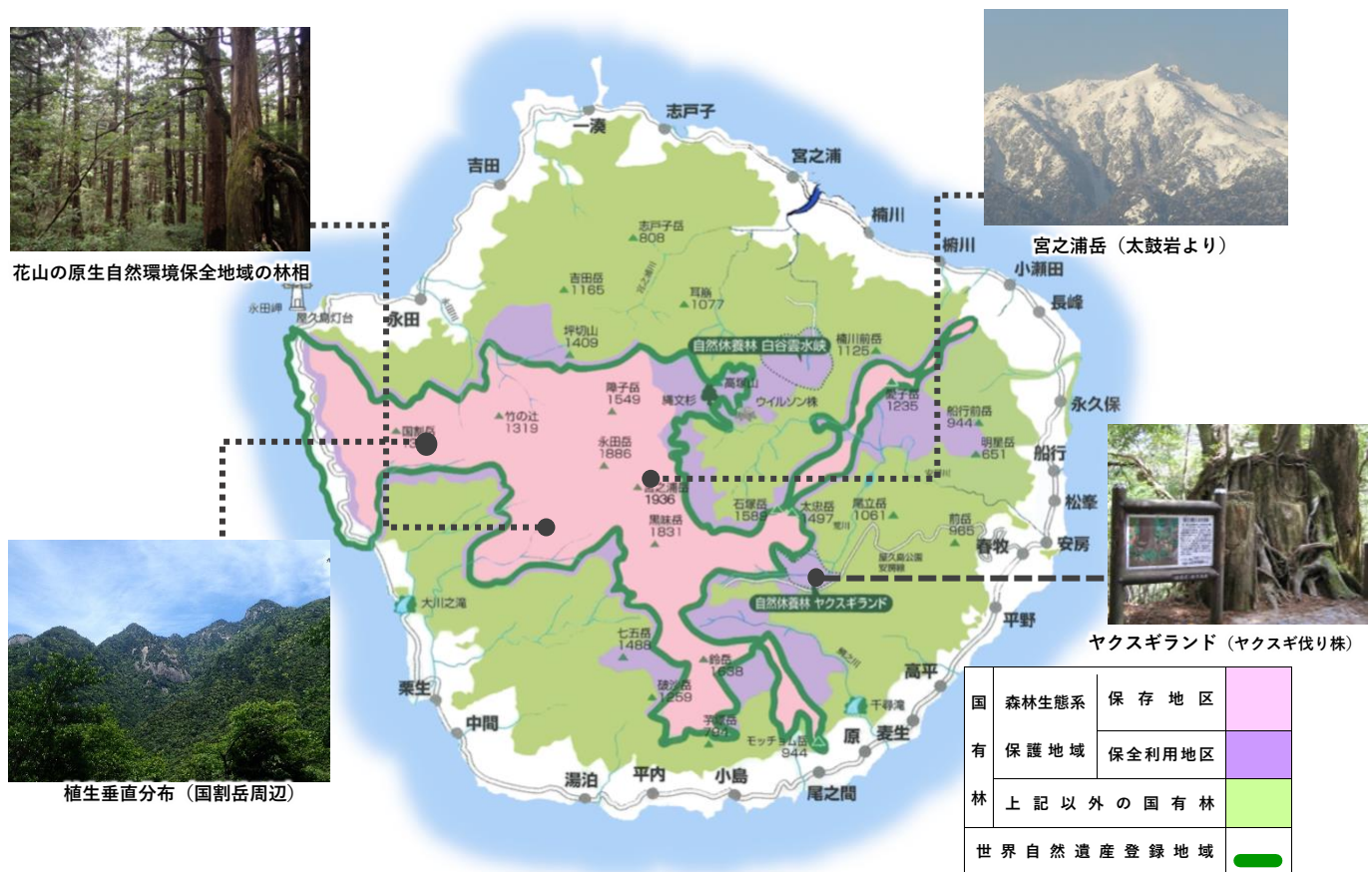
I 概要

屋久島は、九州最南端の佐多岬から南方約60kmの海上に位置し、東西28km、南北24km、周囲105kmのほぼ円形の島で、中央山岳部に九州最高峰の宮之浦岳(標高1,936m)をはじめ、1,000mを超える山々が連なる山岳島であり、その形状から洋上アルプスとも呼ばれています。また、黒潮の影響により温暖多雨で、海岸地帯で4,000mm、中央山岳部では10,000mmもの年間降水量があります。

屋久島の総面積は50,425ha、そのうち38,240haが国有林です。国有林面積の4割にあたる15,185haが森林生態系保護地域に指定され、世界自然遺産地域の約95%と重複しています。

屋久島といえば、樹齢1,000年を超えるヤクスギに目がいきがちですが、海岸部の亜熱帯気候から奥地山岳部の亜寒帯気候まで分布する垂直分布が特徴で、それぞれの気候に応じた植物が見られ、多くの希少種、北限種、南限種が生育している非常に重要な地域となっています。

屋久島森林生態系保全センターでは、世界自然遺産地域をはじめとする森林生態系保護地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図るため、各種モニタリング調査や保全対策、山岳部等の森林パトロール、森林環境教育、自然休養林等の適正な利用などについて、関係する各機関と連携して取り組みを進めています。



屋久島の面積 50,425ha
 屋久島森林面積 45,802ha (島の約91%)
 国有林の面積 38,240ha (島の約76%)
 森林生態系保護地域 15,185ha (国有林の約40%)
 (内訳)保存地区 9,601ha
 保全利用地区 5,585ha

国立公園(陸域) 20,989ha (島の約42%,国有林の55%)
 原生自然環境保全地域 1,219ha
 世界自然遺産登録地 10,747ha (島の約21%,国有林の28%)

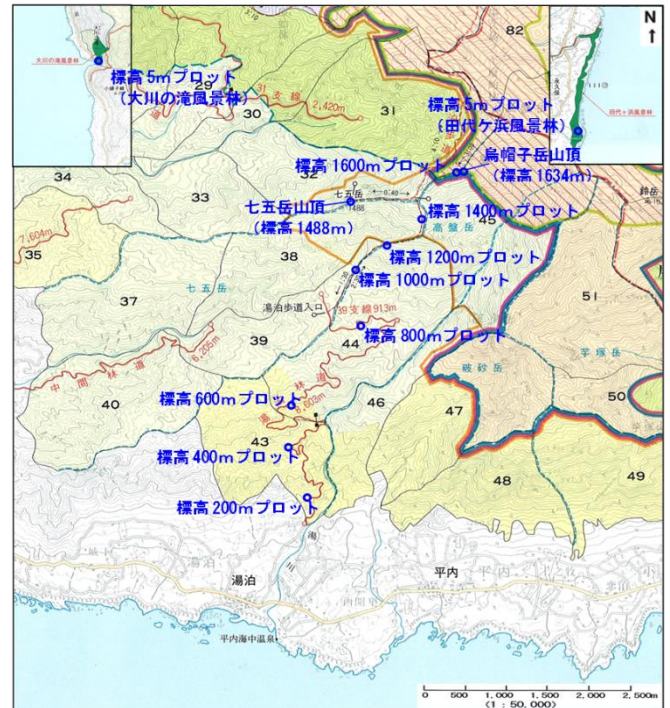
II 森林生態系保全・保護

1. 森林生態系モニタリング

(1) 屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリングは、植生の比較評価及び環境変化の分析を行うことを目的として、5年ごと（過年度には平成15年度、20年度、25年度、30年度）に実施している。

植生垂直分布調査は、標高5m地点（田代ヶ浜・大川の滝風景林の2箇所）から標高1600m地点（烏帽子岳山頂直下）までの標高200m毎に、設定している既存プロット（10か所）を実施した。調査プロット等の位置を右図に示す。



調査プロット等の位置

●調査結果（各標高の確認種数の変化と植生状況）

※（ ）書きは平成30年度の確認種数

標高	プロット地点	調査結果の概要
5m	大川の滝風景林	44種 (40種) 。照葉樹が優占する広葉樹二次林の海岸林である。高木・亜高木層に風衝被害が見られ、特にマテバシイはカシナガやシロアリ等の虫害で折損が見られ、萌芽枝はシカの食害を受けて生長できず更新が危惧される。草本層は平地にはホソバカナワラビがパッチ状に残るが、斜面はシカの食害を受けてほとんど裸地化している。高木層と低木層の本数がほとんど変わらない。
5m	田代ヶ浜風景林	55種 (50種) 。照葉樹が優占する広葉樹二次林の海岸林である。この地域の特徴であるクチナシの自生が見られる。亜高木・低木層はいずれもモクタチバナが突出して多い。草本層はテイカカズラ等のつる植物が目立つ。シカの食害はあるが少ない。5年前にはイエシロアリの虫害が生立木1本に見られたが、今回は高木・亜高木層の3本に見られた。被害木は生存しているが、強度低下と被害の蔓延が懸念される。
200m	湯泊林道沿い	79種 (68種) 。照葉樹が優占する広葉樹二次林である。亜高木層はイヌビワ、低木層はモクタチバナ、草本層はコバノカナワラビ、マテバシイ

標高	プロット地点	調査結果の概要
		(萌芽)が多い。サカキカズラ等のつる植物が一部、高木の樹上まで到達し、高木はその重量や風衝により倒伏している。攪乱を受け、高木層の本数 29 本は過去最少である。このため陽光の照射は所々林内まで届くが、シカの食害が甚大で林床は乾燥し、裸地化が進んでいる。
400m	湯泊林道沿い	107 種 (117 種) 。シマサルスベリ等の落葉広葉樹が優占する広葉樹二次林である。南部地域では最も種数が多い。亜高木・低木層はいずれもモクタチバナ、草本層はカツモウイノデが多い。侵食を受けた沢があり、シダ類は豊富であるが度々攪乱を受けるため、常緑樹への遷移は進まない。調査開始以来、本調査地で初めてヤクシマオナガカエデ 1 本が胸高直径 50cm へ到達した。スギ人工林との緩衝帯はクワズイモが広く優占し、木本の実生が育たず草地のままである。シカの痕跡多数。
600m	湯泊林道沿い	95 種 (97 種) 。シイ・カシ類やイスノキ等の照葉樹が優占し落葉樹のエゴノキが混交する広葉樹二次林である。亜高木層はタイミンタチバナ、低木層はサクラツツジ、ヒサカキ、草本層はコバノカナワラビが多い。この 5 年間で最も風衝害が少なく、高木の本数が多いため林内は日中でも暗い。また、緩い沢を含む崩壊地があるため、アカメガシワ等のパイオニア種も出現し種数も多い。アブラギリは調査地から消失した。
800m	湯泊林道沿い	96 種 (92 種) 。照葉樹が優占する広葉樹天然林である。亜高木はサクラツツジ、低木層はイスノキ、草本層はカツモウイノデが多い。極相林を構成するイスノキが各階層に多く安定していたが、一部ギャップが生じている。樹上の着生植物に陽光が強く照射し、それらに一部衰退が見られる。耐陰性樹種が生長し、上層木にあるエゴノキ、ヤクシマオナガカエデのようなパイオニア種の実生はほとんど見られない。
1000m	湯泊歩道沿い	92 種 (90 種) 。ツガの大径木が稀に出現するが、照葉樹の優占する広葉樹天然林である。亜高木層はサクラツツジ、低木層はハイノキ、草本層はイヌガシ、ハイノキが多く、シカの食害の影響を受けた林相である。風衝害も多く、高木が井桁状に倒伏している箇所もある。そのような場所はシカが侵入できず比較的植物種数が多い。大型シダ、忌避植物のマンリョウにシカ食痕が見られ、シカの探餌・徘徊が推測される。
1200m	湯泊歩道沿い	80 種 (69 種) 。ツガ、スギが優占する針葉樹天然林である。亜高木層はサクラツツジ、低木・草本層はハイノキ、シキミが多く、シカの食害を受けた林相である。本年度 8 月に襲来した台風 6 号の影響を最も受けており、ツガの大径木が倒壊し、スギも大枝を折損して、亜高木以下の階層がそれらの下敷きになる等、大きなギャップが形成された。アセビ・マンリョウ等忌避植物にシカの食痕が見られる。
1400m	湯泊歩道沿い	65 種 (56 種) 。ツガ、スギ等が優占する針葉樹天然林である。尾根上であり風衝樹形のツガが多い。亜高木層にシキミ、サクラツツジ、低木層にハイノキ、草本層にアセビが多く、シカの食害により林床の植生被度は極めて低い。高木層の風衝害が少なく、亜高木層の斜立木の枯死が目立つ。約 15 年前に発生したスギの根返り倒木があり、倒木上にはシカの食害が及ばずソヨゴ、ナナカマド等の着生樹木が生長しつつある。最も高標高に出現したシマモクセイを記録した。

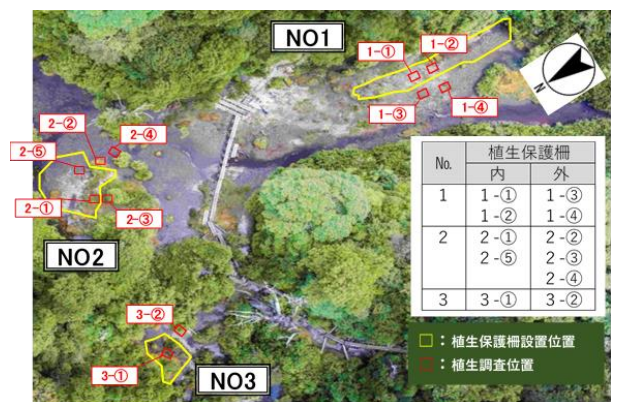
標高	プロット地点	調査結果の概要
1600m	烏帽子岳山頂付近	50種 (50種) 。烏帽子岳山頂付近の著しい風衝地で、矮性化したスギ亜高木が優占する針葉樹天然林である。最上層は亜高木層で、樹高は5m未滿で前回と変わっていない。低木層はヤクシマシャクナゲ、草本層は林縁部にハイノキ、ヤクシマママコナが多い。ヤクシマシャクナゲの大きく厚い葉が林床を覆う箇所は一層照度が低く、生育できる植物種は限定される。シカの食害を受けた林相であるが、今回は目立ったシカの痕跡は確認されていない。

(2) 湿原の植生状況モニタリング調査

(ア) 小花之江河における植生保護柵内外の植生モニタリング調査

シカによる食害・踏圧を把握するため植生保護柵内外の植生状況調査を行った。

平成29年度に設置した植生保護柵内外にある調査プロット(1m×1m)10箇所、令和元年に新たに設置した植生保護柵内にある調査プロット(1m×1m)1箇所について植生調査を実施し、柵内外の植生の回復状況を確認した。



植生保護柵設置位置と植生プロット位置

(イ) 湿原における水の流入流出量および気象モニタリング調査

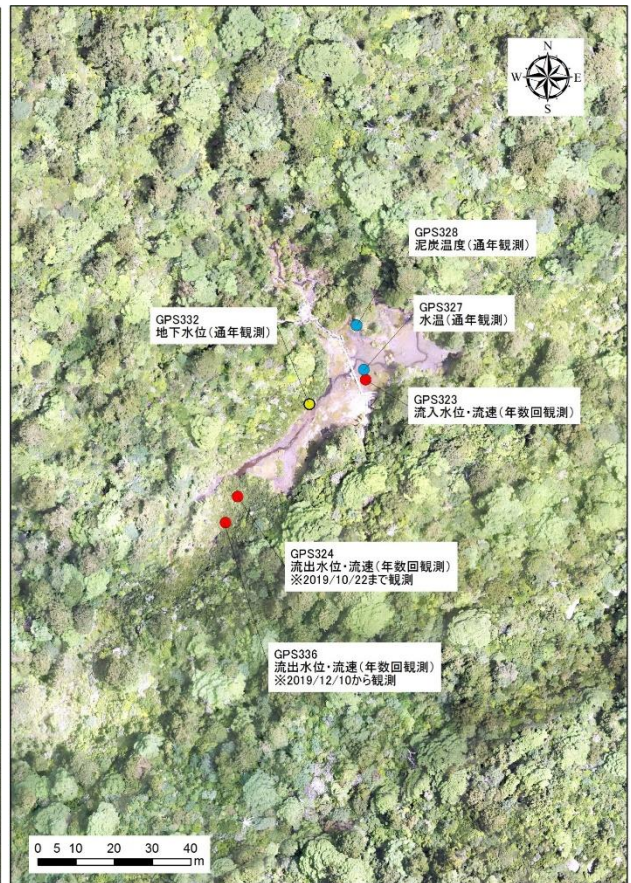
湿原の水文学的な特徴を把握するため、令和元年度から引き続き1)流入流出量観測、2)豊水期および渇水期の流入流出量観測、3)気象観測の3つに分けてモニタリングを行った。

令和4年度前半までの1)～3)により得られたデータを基に、水の流入量と流出量及び降雨量や流域面積との関係から湿原の水文学的な特徴を把握した。本年度からは、またデータを蓄積し、木道付替えの翌年や、流水分散を実施した翌年に、流出特性や水収支の分析を行い、湿原全体への水涵養の変化を把握することとしている。

なお、本年度より湿原保全対策を一部で試行的に実施しており、継続したモニタリングが必要となることから、現在設置しているそれぞれのモニタリング機器については令和6年度以降も継続して設置する。



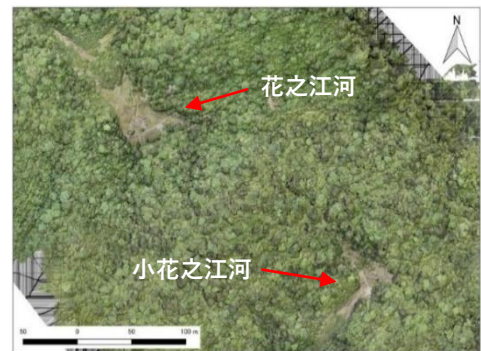
花之江河の調査地点



小花之江河の調査地点

(ウ) 地形調査

湿原地表面の起伏を把握するための、簡易なドローン撮影を令和元年度から4年にわたり年1回撮影しており、地表面及び流路の短期的な変化データを取得している。オルソ画像、標高データ（3cmメッシュ）から、おおよその河床標高が取得できたことから、令和元年度と本年度における標高データから河床縦断曲線を作成し、短期的な河床変化を調査した。



ドローン撮影

(エ) ハベマメシジミの生育調査

ハベマメシジミは落ち葉溜まりを好んで生息する二枚貝であり、鹿児島県RDBにおいて、絶滅危惧Ⅰ類に分類されている。本種については、生息状況の変化を把握するため、世界遺産地域モニタリング計画に基づき、これまで4回（H18、H22、H27、R2）にわたり生息状況の変化を具体的に把握するため、コドラート調査（0.5㎡）と落ち葉溜りでの概況調査を実施し、生息の推移を見てきた。

直近の令和2年度の調査からは、花之江河では確認な



ハベマメシジミ
(絶滅危惧Ⅰ類) (×4.0)

し、小花之江河では2個体確認という結果であった。また、小花之江河の生息地周辺には土砂流入が認められ、令和3年3月10日は屋久島森林生態系保全センターと屋久島自然保護官事務所が連携し、一部土砂（約60kg）を撤去している。

令和3年度からは過年度の調査個所に加え、デトリタスが堆積している淀みにおいても生息確認を行ったところ、平成27年度から生息確認のなかった花之江河でも複数個所で多くの個体を確認することができた。また、小花之江河においても、平成27年度から生息確認は1箇所のみであったが、複数個所で確認したことから、本年度も引き続き同様の箇所で調査を行った結果を整理した。なお、当該種保存のため、調査地が特定できる写真及び図面は掲載していない。

(オ) 試行的保全対策個所の土砂・枝条等の堆積状況のモニタリング調査

河床低下や流路の拡幅が生じている花之江河において、緩やかに土砂等を堆積させて河床低下の進行を回避すること、及びその効果的な方法を検証するため、令和元年より丸太木柵工の設置による試行的対策を継続している。設置箇所は河床低下が進み、レキが表面に現れている流路（1流路）を対象とした。

設置から約5年が経過する中で、引き続き丸太木柵工の設置効果を評価し、今後の湿原保全対策に資することとした。



(カ) 保全対策実施計画書の作成

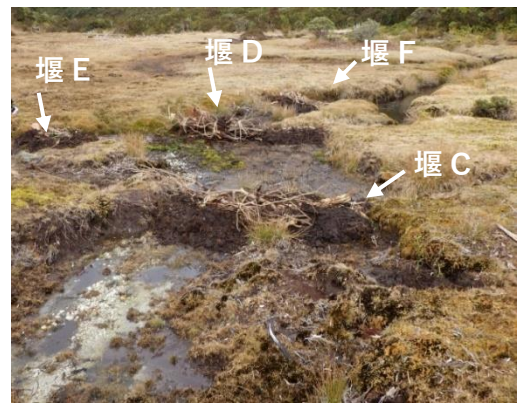
平成30年度～令和4年度までの5年間をかけて策定した「屋久島湿原保全対策」に基づいた「保全対策実施計画書」の作成を本年度より進めている。進め方としては、事業開始の段階で「屋久島湿原保全対策」に関わってきた有識者（2名）の助言を受けつつ、保全対策実施計画書（素案）、保全対策実施のロードマップ（素案）の作成を進めている。次年度以降は、環境省事業の進捗を見ながら具体的な対策内容や対策箇所について記載を進める予定としている。

(キ) 令和5年度に実施した湿原保全対策

令和5年度の湿原保全対策の実施については、令和4年度に策定した湿原保全対策を踏まえ、5月20日の現地調査と翌日5月21日の打合せで、局所的に侵食が進んでいる流路の侵食防止対策及び祠付近に集中していた流路を分散するための流水分散対策として具体的な場所と手法を確定した。また、11月28日に上記の場所と手法により湿原保全対策を実施した。

流路に設置した堰は、降雨時に流出しないよう、旧植生保護柵周辺から撤去した枝条で周囲を囲ったことで、しばらくは設置箇所に固定され、上流から流れてくる土砂や枝条を補足して、堰としての機能を発揮すると考えている。

なお、令和5年度は試行的に実施することとし、対策の効果を鑑みながら、場所や手法を再検討するといった順応的管理に基づいて行っていくことが重要であることを、参加者（下川委員、井村委員、九州局、環境省、事務局）間で共有した。



堰 C,D,E,F (設置後)

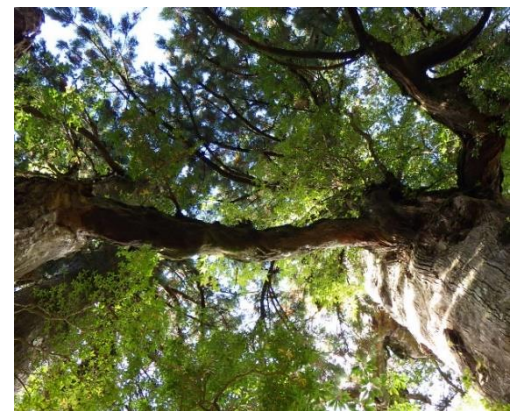
2. 森林生態系保全

(1) 植生保護

樹勢診断（夫婦杉）

(ア) 目的

著名屋久杉のうち、外見上で樹勢が衰えた樹木等を中心に現地調査を行い、被害発生の原因究明と今後の保護対策や改善策を検討することを目的としている。



夫婦杉（枝の連理部分）

(イ) 調査対象木

「夫婦杉」は宮之浦岳国有林 99 林班の標高 1247m の大株歩道沿いに生育しており、3 mほど離れた2本の巨木の枝が 10m程の高さの所で、まるで2本の杉が手を取り合うように繋がっている（連理）のが特徴である。杉は癒合しやすいため根元から合体している例は多々あるが、高い位置で繋がっている希少な例とみられている。樹高及び胸高周囲は、それぞれ夫 27.2m、10.4m、妻 23.3m、5.9mとなっている。



(夫)樹形根元写真

(妻)樹形側面写真

(ウ) 総合診断

夫スギ

●周辺環境の影響

立地は南西向きの斜面で、台風等による強風や積雪等の被害が懸念される。下層植生の草本類はやや乏しく野生動物（シカ等）の影響と考えられる。

●根系・根元、大枝、幹、樹冠・枝葉の状況

株腐朽が著しく、内部は大きく空洞化しており、西、北、東面にかけて、開口部が多数ある。根

株腐朽は著しいが、根系は発達している個所も多く見られる。幹部の腐朽も著しく、幹は根株から頂部まで大きく空洞化し、頂部と北面に大きな開口部がある。幹は、南西（斜面下方向）へ5°程度傾いている。大枝折れの痕跡が数箇所みられる。樹冠は、北、北東、南東にかけて広がっており、西から南側にかけて少ない。枝葉は先端枯れが見られ、伸張量も少ないが、腐朽の大きさを考えると緑枝量は多い方である。

●考察及び総合判断

根株から幹にかけて腐朽が著しく、特に根株の腐朽が著しい状態で、樹冠も偏りがある為、支持力不足と考えられる。しかしながら妻スギと枝が結合し、お互いが支えあっている状態であり、根返りや幹折れの危険性を下げている。腐朽の進行は、根返りや幹折れの危険性を高める。当該木の緑枝量は確保されているが、根株や幹部の腐朽状態から樹勢は不良と判断できる。周辺環境を整える事と幹部と根株の腐朽を進行させない事を優先課題とし、対策を検討する。



(夫) 被害・病徴部位等の細部写真

妻スギ

●周辺環境の影響

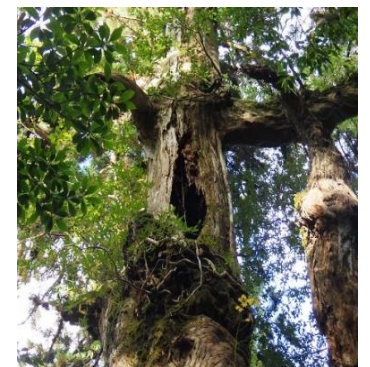
立地は南西向きの斜面で、台風等による強風や積雪等の被害が懸念される。下層植生の草本類はやや乏しく野生動物（シカ等）の影響と考えられる。



(妻)根元空洞内部（南側から撮影）

●根系・根元、大枝、幹、樹冠・枝葉の状況

根元は、北側から東側で根株腐朽が見られ、北側と南側に開口部があり、根株の1/3程度空洞化しているが、南側から西側の根系は良く発達し、腐朽部の巻込みも見られる。幹は2本に分かれており、西側の幹は緑枝量が多く、損傷も少なく樹勢も良い。東側の幹は頂部が折損しており、腐朽が著しく大きな開口部もある。開口部付近は幹回りの2/3~1/4程度は腐朽しているとみられる。東側の幹は南西側へ（斜面下方向）へ5°程度傾いている。東側の幹と枝で夫スギにつながっている。樹冠は、南、南西、西にかけて広がっており、北~東側にかけて少ない。西側の幹は枝葉量が多いが、東側の幹は西側の幹に比べ枝葉量が極端に少ない状況である。



(妻) 幹部の腐朽の状況

●考察及び総合判断

東側幹部の腐朽は著しい状況で、幹折れ等の可能性は高いが夫スギと枝が結合し、お互いが支えあっている状態であり、幹折れの危険性を下げている。腐朽の進行は、幹折れの危険性を高める。西側の幹は樹幹も良く発達し、枝葉量も多く樹勢も良いが、東側幹部の腐朽及び根株の状態から樹勢は不良と判断できる。周辺環境を整える事と幹部と根株の腐朽を進行させない事を優先課題とし、対策を検討する。

(エ) 処方箋

●周辺環境の整備

両スギとも、シカ食害防止の為、植生保護柵を設置し、本来の下層植生に戻し、植生環境を整える。

●土壌改良と発根促進

両スギとも、現状では土壌改良の必要はない。

●樹幹部の処理

夫スギについて、樹幹内部の腐朽については、腐朽部の除去等が考えられるが、腐朽の進行に対して大きな効果は期待できない為、経過観測とする。妻スギについては、必要なし。

●剪定、支柱等の設置

両スギとも、必要なし。

●柵の設置

両スギとも、樹冠の広がりよりも2~3倍程度の範囲に、シカ等の動物が侵入できない保護柵の設置が必要。

●保全計画

両スギとも、中・長期的に定期的な調査を行い、樹勢や樹形、腐朽部の状況、周辺環境等の確認をし対応策の検討を行う。

(2) 森林パトロール

(ア) 地域連携推進等対策事業（グリーン・サポート・スタッフ）

林野庁は、自然性の高い天然生林において入り込み者の増加や登山利用の集中化・大衆化等に伴い、人為による植生荒廃や森林機能の低下が見られることから、森林保護員(グリーンサポートスタッフ)による森林パトロールを実施することとし、平成18年度から天然生林管理水準確保対策事業を実施している。

これにより貴重な価値ある自然を将来に亘って維持していくこととして、その厳正な保護及びその周辺を含めた森林環境の適切な保全管理を推進している。

具体的には、世界遺産地域を含む屋久島の登山道等の森林パトロール及び軽微な補修、植生の衰退等の把握、登山者の安全・マナーに対する指導等を行なっている。



注意標識の設置



登山道の修理

(イ) 入林者増加期の職員によるパトロール

●シャクナゲ開花時期のパトロール

シャクナゲの開花が予想される時期に合わせて、高山植物等の盗掘防止の呼びかけや登山マナーの普及啓発活動を行っている。令和5年度は様々な規制が解除され来島者は増加傾向にあるが、梅

雨時期ということもあり、登山者は多い日でも黒味岳で 25 名ほど、太忠岳は 3 名、永田岳に関しては見られなかった。シャクナゲはピークより少し過ぎてはいたが、満開に近い状態であり、予定路線 4 コースのうち宮之浦岳コースを除く 3 コースにおいて実行することができた。

また、登山にあたっては「安全行動マニュアル」を全職員に周知徹底を行い安全第一にパトロールを行った

パトロール結果については下記のとおり

【パトロール期間】 5 月 29 日(月)～6 月 9 日 (金)

【パトロール日数等】

- ①宮之浦岳方面…………… 実績なし
- ②黒味岳方面…………… 1 日間 (3 人)
- ③永田岳方面…………… 1 日間 (4 人)
- ④太忠岳方面…………… 1 日間 (5 人)



黒味岳近くのヤクシマシャクナゲ

●夏休み期間中の森林パトロール

夏休み期間中は、登山者の増加が見込まれることから、登山客へマナーの呼びかけを行っている。本年も猛暑が続く中のパトロールとなり、非常に厳しい環境下で大変苦労したが、怪我なく無事に終了することができた。長雨の影響からか永田岳・蛇之口滝方面の登山者は見られなかったが、太鼓岩方面では 120 名の登山者を確認することができた。シャクナゲ開花時期のパトロールを含め、ルールを無視した登山者など異常は見られなかった。

【パトロール期間】 8 月 1 日 (火) ～8 月 31 日 (木)

【パトロール日数等】

- ① 宮之浦岳方面…………… 実績なし
- ② 黒味岳方面…………… 実績なし
- ③ 永田岳方面…………… 1 日間 (4 人)
- ④ 太忠岳方面…………… 実績なし
- ⑤ 大株歩道方面…………… 実績なし
- ⑥ 太鼓岩方面…………… 1 日間 (4 人)
- ⑦ 蛇之口滝方面…………… 1 日間 (4 人)



雲の隙間から海を望む

(3) ヤクシカ対策

(ア) 屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ

第1回目の会議は令和5年7月13日、第2回目は令和6年1月31日に開催され、ヤクシカの生息状況、捕獲等の被害防止対策、森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング、特定エリアの対策（西部地域）、今後のヤクシカ管理方針等について報告と議論が行われた。

（会議の資料や議事録は九州森林管理局 HP に掲載）

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/fukyu/shika/yakushikaWG_kaisaijoukyou.html

生息数は表1のとおりで、平成26年度以降減少傾向にあったが、全体として令和4年度より増加している。捕獲実績は表2のとおりとなり島内全体でみると減少傾向にある。



(イ) 局委託調査協力

九州森林管理局が委託契約する「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査(屋久島地域)」においては、ヤクシカの生息、移動状況や被害の状況等を把握した上で、植生の保護・再生方策、ヤクシカの個体数調整方策を含むヤクシカに関する総合的対策を検討・実施することとなり、当保全センターでは、受託者と連携を図りつつ各種調査等の指導助言及び調査協力を行った。

また、委託調査で報告されたカンカケ及び中間の植生保護柵の破損箇所について、当保全センターにおいて補修を実施した。

(ウ) 有害鳥獣捕獲等

ヤクシカの適正な生息頭数目標に向けて、国有林内で実施している職員による有害鳥獣捕獲を令和5年度も屋久島森林管理署（鍋山及び船行林道）、当保全センター（神之川林道）で実行し、捕獲頭数は17頭であった。

表1 調査地点数と推定個体数（平均及び95%信頼区間上限値）の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
糞粒調査地点数	20 地点	83 地点	35 地点	35 地点	35 地点	35 地点	35 地点	38 地点	38 地点	38 地点
推定個体数	28,392 ～ 44,624	21,206 ～ 31,330	16,968 ～ 28,374	11,300 ～ 15,930	13,390 ～ 20,260	9,540 ～ 14,690	12,240 ～ 18,100	12,550 ～ 16,670	10,380 ～ 15,470	14,730 ～ 20,850

ヤクシカ WG 資料（鹿児島県）

表2 屋久島におけるヤクシカの捕獲数の推移

捕獲年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
有害	国有林外	4,886	4,642	2,861	2,409	2,500	2,352	2,132	2,043	1,963	1,674
	国有林内	399	510	403	427	192	173	159	213	207	142
狩 獵		1	3	3	22	107	11	28	13	5	0
合 計		5,286	5,155	3,267	2,858	2,799	2,536	2,319	2,269	2,175	1,816

3. 気象モニタリング

(ア) 目的

屋久島では、年間 4,000～10,000 mm に達する降雨があること、花崗岩特有の表層の浅い地域が多いこと等から、山腹崩壊、土砂流出等の山地災害も多く発生している。

また、標高 0 m～1,900 m に達する海岸線から奥岳に至るまでの標高差の中において、多種多様な動植物が生息している。

これらのことから、国有林の要所に雨量計及び温度計を設置して常時観測を行い、永続的なデータを保存し、森林生態系への影響把握を行うこととしている。

※ この雨量及び温度観測は気象業務法第 6 条 1 項 1 の研究のために行う気象の観測となっている。

(イ) 観測体制

データの回収・機材の点検等については、職員で定期的に行っている。

(ウ) 観測地

図 1、表 1



職員による雨量計（転倒マス）の清掃

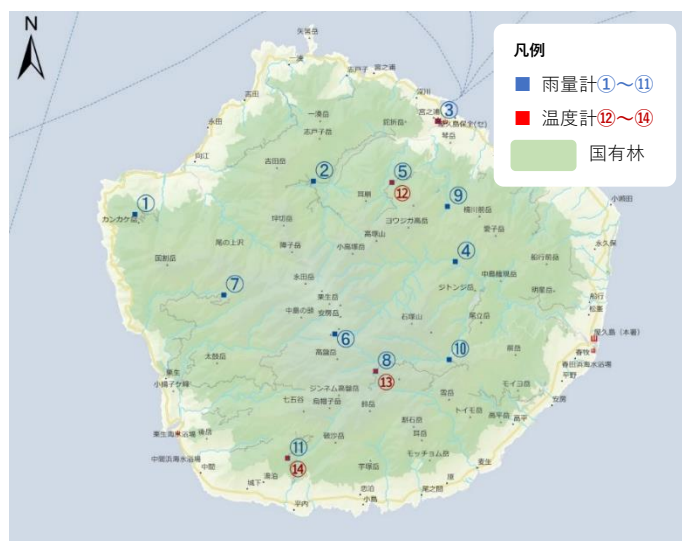


図 1 雨量計・温度計設置箇所位置図

表 1 雨量計・温度計 設置箇所一覧表

機器	番号	設置箇所	林小班	標高	備考
雨量計	①	永田カンカケ岳付近	275 た	730m	H12.07.12 設置
	②	宮之浦林道 233 支線	233 ぶ	460m	H08.03.26 設置 H29.1 に 800m 下流に移動
	③	屋久島森林生態系保全センター	敷地内	5m	H07.08.31 設置
	④	小杉谷事業所跡	101 イ	680m	H08.02.07 設置
	⑤	白谷林道 220 支線	219 い	650m	H09.11.11 設置 H24.2 白谷から移設
	⑥	黒味岳頂上付近	22 ニ	1,800m	H08.05.31 設置
	⑦	大川林道	9 る	1,020m	H08.02.01 設置
	⑧	淀川登山口	62 い	1,380m	H07.12.25 設置
	⑨	白谷雲水峡	215 い	630m	H12.05.10 設置
	⑩	ヤクスギランド	79 ハ	1,000m	H11.03.17 設置
	⑪	湯泊林道	43 イ	424m	H31.02.12 設置 (令和 4 年 3 月 11 日移設)
温度計	⑫	白谷林道 220 支線	219 い	650m	H23.02.18 設置
	⑬	淀川登山口	62 い	1,380m	H26.02.21 設置
	⑭	湯泊林道	43 イ	424m	H22.11.16 設置 (令和 4 年 3 月 11 日移設)

(エ) 気象観測結果

●降水量データ（欠測箇所を除く）

降水量は前年と比較すると、若干降水量が減少している。

月別の降水量については、8月が最も多く、少ないのが11月だった。観測地点別では、淀川登山口が最も多かった。

●気温データ

標高の高い淀川登山口が一番気温が低い記録となった。冬期は氷点下を多く記録した。

●欠測データについて

令和5年度の気象観測データについては多数で欠測があった。欠測原因を分析すると機器の不具合が多く、電池切れなどもあった。今後は欠測期間を無くすために、新たな機械を導入しデータ収集するよう努める。

月別降水量（令和5年/単位:mm）

平年値：欠測箇所を除く

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
最大値	396	851	729	1,115	749	1,680	1,065	3,081	400	633	258	829	11,786
平年値	332	428	453	542	308	1,158	638	1,951	277	376	172	381	7,016

月別・地点降水量（令和5年/単位:mm）

計：欠測箇所を除く

観測地点\月	標高	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
①カンカケ岳	730m	170	186	10 #	—	—	—	—	—	25 #	86	124	181	747
②宮之浦林道	460m	346	286	55 #	—	—	—	—	105 #	175	303	258	384	1,752
③保全センター	5m	269	282	279	341	82	779	289	936	60 #	2 #	134	243	3,634
④小杉谷	680m	339	434	428	698	348	1,302	621	2,044	400	522	146	221	7,503
⑤白谷林道220支線	650m	—	28 #	347	471	151	1,058	544	1,686	296	429	156	360	5,498
⑥黒味岳	1800m	—	—	175 #	0 #	—	—	—	—	—	—	—	—	0
⑦大川林道	1020m	396	362	393	513	188	—	—	—	88 #	241	209	375	2,677
⑧淀川登山口	1380m	379	644	697	1,115	749	1,680	1,019	3,081	255	464	202	458	10,743
⑨白谷雲水峡	630m	373	377	446	627	274	1,141	553	2,230	330	418	182	436	7,387
⑩ヤクスギランド	1000m	382	851	729	273	314	1,311	1,065	2,450	328	633	185	829	9,350
⑪湯泊林道	424m	—	34 #	302	297	359	836	375	1,231	154	290	124	320	4,288
計		2,654	3,422	3,621	4,335	2,465	8,107	4,466	13,658	1,938	3,386	1,720	3,807	53,579

※—は欠測、#は期間中に欠測のあることを示す。

月別気温（令和5年/単位:°C）

白谷林道 220 支線（標高 650m）

※最高温度について、3月から9月にかけて異常温度があったため最高温度の平均とした。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均	7.0	8.9	12.2	14.5	18.5	18.5	25.5	24.2	23.1	16.8	12.6	8.7	15.9
最高	18.2	19.7	32.7	36.2	29.7	35.7	40.8	33.9	31.9	29.3	21.5	17.8	29.0
最低	-2.4	2.8	2.9	5.0	9.5	15.6	19.4	20.3	19.4	11.1	7.4	0.0	9.3

淀川登山口（標高 1,380m）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均	2.0	4.0	6.5	9.6	12.6	16.5	19.2	19.2	17.9	11.2	7.6	4.5	10.9
最高	13.5	14.3	17.3	21.4	25.5	24.8	26.4	27.4	25.0	23.2	17.6	14.3	20.9
最低	-8.0	-4.6	-4.3	-3.0	0.7	7.3	13.4	12.6	11.5	1.7	-1.6	-4.5	1.8

湯泊林道（標高 424m）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均	9.8	11.7	14.3	16.8	18.9	21.9	25.2	24.9	24.2	19.3	15.9	12.3	17.9
最高	19.6	21.3	24.7	27.3	30.2	29.9	32.1	32.1	31.0	30.0	27.7	25.4	27.6
最低	-0.6	3.9	5.4	7.5	10.5	15.1	20.3	20.5	20.1	11.9	8.1	3.2	10.5

4. 屋久杉巨樹・著名木調査

(ア) 背景と目的

平成4年、屋久島の世界自然遺産登録を前に屋久杉自然館と当時の上屋久営林署・下屋久営林署が中心となって、国有林内の代表的な屋久杉を調査し、平成5年に屋久杉自然館が書籍「屋久杉巨樹・著名木」を発行し成果報告している。

前回調査から30年ほど経過し、この間37本のうち6本が枯死または倒木しており、今後も台風等による倒木等の危険度は高いものと考え、今のうちに個々のデータを収集・保存し後世に残すことが、とても重要と考えた。また、令和5年は屋久島世界自然遺産登録30周年でもある。

そこで、30周年記念事業の一環として調査することとし、森林の3次元レーダー計測やドローン等の最新機器も活用し、現在の屋久杉の状況を記録・保存することとした。また、得られたデータ等については、学術研究に活用していただくことも目的とした。

(イ) 調査内容

関係機関からなる「屋久杉巨樹・著名木調査検討会」を立ち上げ、九州大学総合研究博物館協力研究員の吉田茂二郎先生と琉球大学農学部与那フィールドの高嶋敦史准教授にアドバイザーになっていただき、調査項目や調査方法等について議論決定した。

調査は基本6名体制で、樹高、胸高周囲、標高、傾斜、緯度・経度、着生植物、周辺部の植生について実施した。加えて、写真等記録として森林3次元計測システムOWLによる計測、GOプロカメラ、一眼レフカメラ、ドローンによる撮影を実施した。

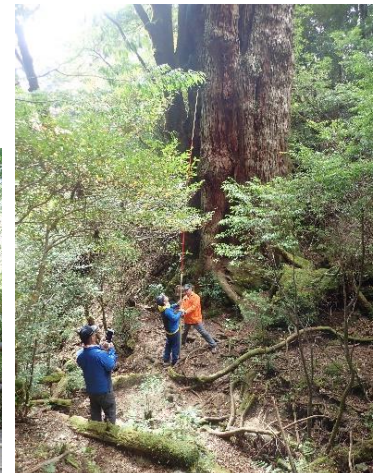
調査木は、屋久杉自然館発行の「屋久杉巨樹・著名木」に掲載する37本に、ヤクスギランドや白谷雲水峡などの登山道周辺にある10本を加えた47本とした。



胸高周囲（縄文杉）



OWL（仏陀杉）



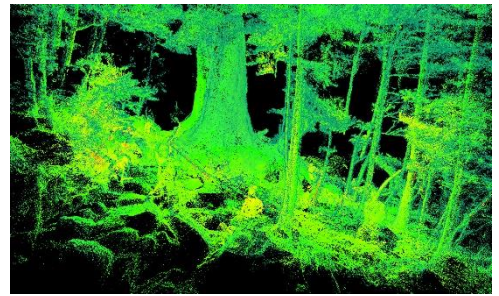
GOプロカメラ（大和杉）

(ウ) 調査結果

調査は屋久島自然保護官事務所、屋久島環境文化財団、屋久島町、屋久杉自然館、屋久島レクリエーションの森保護管協議会、屋久島森林管理署の協力で、平成4年7月から平成5年10月まで、延べ211人で36日かけて実施した。

樹高、胸高周囲、標高、傾斜、推定樹齢（吉田茂二郎先生が公表したヤクスギ円盤の資料を参考にした推定値）、主な着生植物、主な周辺部の植生、また、一眼レフカメラで撮影し合成ソフトを使って3Dで再現した縄文杉などの映像について、当保全センターHPで公開している。

OWL は、屋久杉の形状や周辺植生等の 3次元空間データの取得ができないか試行した。調査木から数メートル離れた位置から周囲の 7か所で計測したが、調査木周辺の植生等がレーザー照射の支障となりデータ取得が十分では無かったため、三本足杉、七本杉、八本杉、雷神杉、風神杉、三代杉の 7本しか合成（一部合成含む）することができなかった。また、巨木なため樹木とみなさないのか、径級等のデータは示されなかった。



七本杉周辺の OWL 解析画像

GO プロカメラは、測竿の先に取り付け、調査木の周囲 4か所で、地上 10m の高さまで伸ばして 1m 下げるとに撮影し映像を残した。



縄文杉

一眼レフカメラは、樹幹の状況、形状等を記録するため撮影した。撮影方法は、写真の上下が半分程度が重なりを持つようにして根元から梢へ 5枚ほど撮影し、少し横にずれて左右・上下半分程度重なるようにして梢から根元へと撮影を繰り返して、調査木を一周した。撮影した写真から合成ソフトを使って縄文杉、龍神杉、雷神杉、岩戸杉、太古杉、大龍杉、八本杉について 3D 画像を作成することができた。



3D 画像の太古杉

ドローンは上空からの状況や着生木の状況を撮影記録した。紀元杉のように林道沿いにある著名木はドローンでの撮影が可能であるが、調査木のほとんどは森の中にあるため植生が多く支障となり飛行できないケースがほとんどであった。



紀元杉

(エ) 世界自然遺産登録 30 周年記念事業



著名木写真の展示

今回の調査は、30 周年記念事業の一環として取り組み、令和 5 年 11 月に開催された記念シンポジウム会場において、調査時に撮影した著名木等の写真を展示、紹介した。

また、3D 画像として合成できた著名木 7本については、モニターに写し



コントローラーで画像操作

出し、来場者にゲーム用コントローラーを使って、著名木の近くまで行った気分になって、いろんな角度から、自由に見て、楽しんでいただいた。子どもたちはゲーム感覚でコントローラーを操作し楽しんでた。ガイドの方は、普段見ることのできない裏側なども見ることができて大変参考となったなどの声をいただいた。

Ⅲ 普及教育・森林空間利用

1. 森林環境教育の実施

(1) 屋久島高等学校

【実施日】 令和5年6月20日 【場 所】 屋久島高等学校体育館

【参加者】 1年生71名

【内 容】 登山上のマナーやルール及び自然環境へ配慮した携帯トイレの使用方法について説明を行った。また、白谷雲水峡太鼓岩登山ルートの見どころ等の説明を行い、学校登山そのものの希少性や屋久島の貴重な自然環境についても講義も行った。



携帯トイレの実演

(2) 大分舞鶴高等学校（スーパーサイエンスハイスクール指定）スキルアップ研修

【実施日】 令和5年9月29日 【場 所】 宮之浦嶽国有林 224 林班ほか

【参加者】 理数科1年生21名

【目 的】 課題研究の事前活動として、貴重な生態系を誇る屋久島をフィールドとした自然体験を伴う調査研究活動を行うことで、将来の科学系人材としての態度や基礎的技能を育成する。

【内 容】 生徒には国有林内の試験地において、屋久島森林管理署と当保全センター職員の補助の下、樹高・胸高直径・樹木位置の測定や下層植生の調査を体験してもらった。生徒たちは調査したデータを基に、林分の階層構造等の分析を行った。



下層植生について説明

(3) 小中学校森林教室

① 中央中学校

【実施日】 令和5年5月17日

【場 所】 中央中学校体育館及び宮之浦嶽国有林

【参加者】 1年生58名

【内 容】 屋久島森林管理署及び当保全センターの業務についての説明や間伐実行箇所の見学を行った。その後、班ごとに現地見学で気づいたことをまとめてもらい、森林の役割や苗木不足問題について説明を行った。最後にスギの種まき体験を行った。



生徒による種まき

② 中央中学校（2回目）

【実施日】令和6年1月12日【場所】中央中学校多目的室ほか

【参加者】1年生57名

【内容】屋久島森林組合・屋久島森林管理署及び当保全センターで屋久島林業の歴史から現状について説明を行った。また、ヤクスギと内地のスギは遺伝的な違いがあるため屋久島天然スギ由来の苗木を育苗していくことが重要であることなど説明を行った。その後、第一回目の森林教室から育ててもらっていたスギの実生苗を、マルチキャビティコンテナへ植え替えを行った。



生徒による植替え

③ 安房中学校

【実施日】令和5年10月23日【場所】安房中学校教室及び校庭

【参加者】1年生24名

【内容】学校内にある樹木の説明や測樹体験を実施した後、当保全センター作成の「シカと森のカード」を使い、生物多様性・森林保全について学んでもらうとともに、携帯トイレや林野庁の仕事についての講義を行った。



校内の樹木の説明

④ 神山小学校

【実施日】令和5年10月23日【場所】神山小学校教室

【参加者】3年生17名

【内容】森林の機能や木材を使うことの重要性についての説明を行った。また、木を使うことの一環として、木工を行い地域に伝わる妖精のマスコット作成を行うと同時に、林野庁作成の冊子「森とくらし」及び鉛筆の配布も行った。



森林の機能について説明

⑤ 榕城小学校

【実施日】令和6年1月30日【場所】榕城小学校多目的ホール

【参加者】5、6年生135名

【内容】種子島ヤクタネゴヨウ保存の会・森林総合研究所と共同で実施。当保全センターと屋久島森林管理署で樹木に親しみを持ってもらうためにクイズや葉っぱの仕組、種子の分散についての講義を行った。その後、種子島ヤクタネゴヨウ保存の会と森林総合研究所で種子島と屋久島だけに自生するヤクタネゴヨウの生態や保全活動について説明したほか、枯れた松を割って中にあるマツノマダラカミキリの幼虫の観察を行った。



樹木と親しむ

⑥ 安房小学校

【実施日】 令和6年2月22日 【場 所】 安房小学校多目的室

【参加者】 5年生 38名

【内 容】 屋久島森林管理署とともに植物の名前当てクイズを行った後、森林の多面的機能について、林野庁の役職の一つである森林官の仕事についての講義を行った。後半は「シカと森のカード」を使って、生物多様性について考えてもらった。



シカと森のカードで楽しく学ぶ

(4) インターンシップ

【実施日】 令和5年9月4日～8日 【場 所】 翁杉及び西部林道など

【参加者】 宮崎大学農学部3年生 2名

【内 容】 初日は、当保全センターの業務概要説明後、モニタリング調査箇所状況の説明と保全対策について現地実習を行った。2～3日目は、屋久杉巨樹・著名木調査の現地へ徒歩で向かい調査を実体験するとともに、途中では、林業の歴史や下層植生等について学習した。4日目は、屋久島森林管理署の業務から、森林整備事業及び治山事業について説明を行った。最終日には、森林環境教育及び入林関係等について説明し、その取組と新たな発見に関心を深めていた。最終レポートを作成し無事に終了することができた。



国割岳周辺の植生垂直分布を説明
(西部林道沿線)

2. 屋久島自然休養林

(1) 森林環境整備推進協力金の実施

森林及び利用施設の整備と環境美化のため、協力金制度を導入している。

- ・協定相手方 「屋久島レクリエーションの森保護管理協議会」
- ・協力金の額 高校生以上 1人 500円
- ・令和5年度協力金徴収額合計 46,710,300円 (対前年比 116.1% 6,471,475円増)

(2) 利用者数

●全利用者数

荒川地区 (ヤクスギランド) …	48,635人	(対前年比 120.0%	8,106人増)
白谷地区 (白谷雲水峡) ……	71,606人	(対前年比 114.2%	8,890人増)
計……………	120,241人	(対前年比 116.5%	16,996人増)

●外国人入林者数

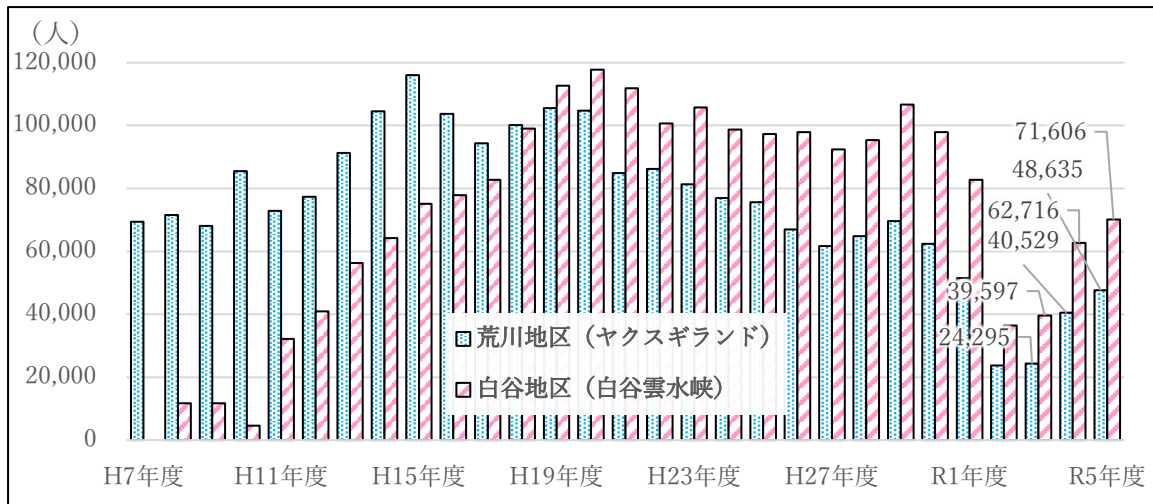
荒川地区（ヤクスギランド）…	7,012 人	（当年度全体比 6.0%）
白谷地区（白谷雲水峡）…	13,528 人	（当年度全体比 11.5%）
計…	20,540 人	（当年度全体比 17.4%）

●年度別利用者数の推移グラフ

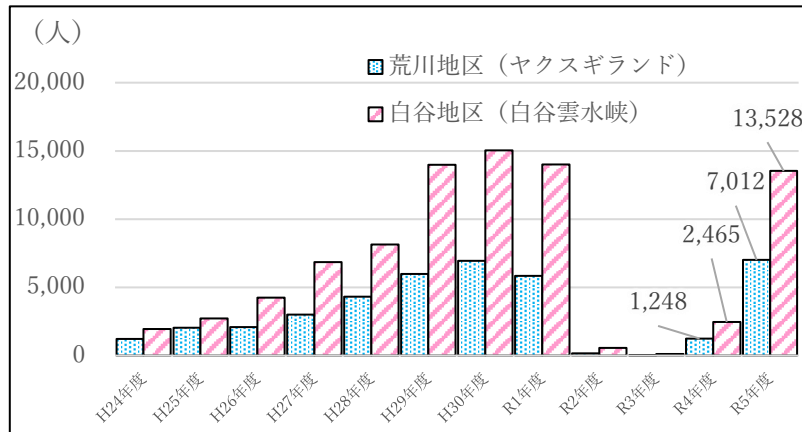
年間利用者は令和4年度に比べ、若干増加傾向となっている。特にインバウンド回復の影響もあってか、外国人利用者数が前年度に比べ約5.5倍と大幅に増加している。

※ データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会

全利用者数



外国人利用者数



IV その他

1. 入林の手続き状況

調査研究やドローン含む撮影、イベント等を目的として国有林へ入林される場合は、入林届の内容（目的、場所、期間等）に基づき、国有林の管理経営上の支障の有無について確認している。また、入林に植物採取を伴う際は高山植物等採取申請書をいただくが、現状変更に関係機関の許可が必要な場合には、その許可書等についても確認している。近年、入林目的が多様化しており、保全と利用の在り方について現状を踏まえた対応が求められている。

(1) 入林届件数

令和5年度の入林届も撮影目的での入林が最も多く全体の63%を占めている。約7割がドローンを使用しているが、その半数は一般観光客でありドローンの普及がうかがわれる。

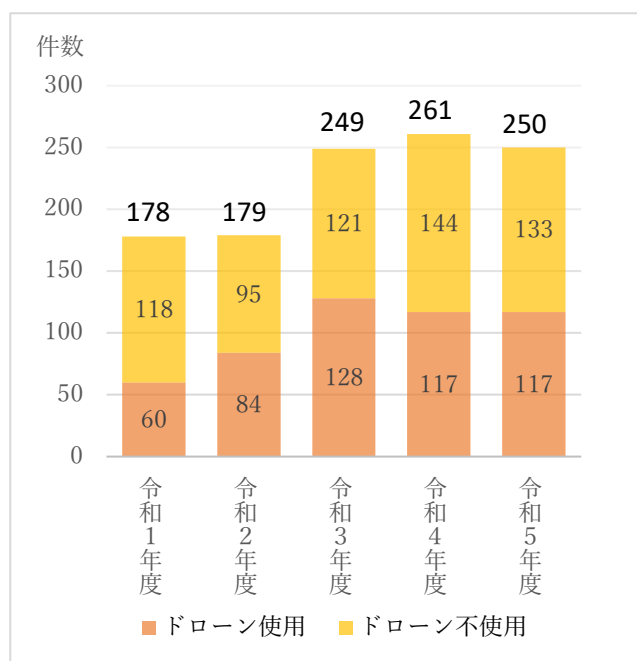
入林届（一般）件数

入林目的	件数	うちドローン届数
調査・研究	60	5 (8%)
撮影	157	109 (69%)
測量関係	3	2 (67%)
その他	30	1 (3%)
計	250	117 (47%)

入林届（国または地方公共団体）件数

鹿児島県	20
環境省	17
屋久島町	8
警察・消防・防疫関係	3
九州森林管理局委託	3
計	51

入林届（一般）件数の推移



(2) 調査研究の入林目的（保護林以外も含む）

代表者所属	入林目的
龍谷大学 国際学部	野生ニホンザルの観察調査
琉球大学 農学部	ヤクスギ林固定試験地のメンテナンス（破損・脱落した樹木タグや、仮タグの更新・付け直し等）
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター	シカ・サル・鳥類の個体群動態と人口統計学的特性、シカの食性、社会行動、個体の行動域、遺伝特性、およびシカによる自然植生に対する影響を長期継続調査によって明らかにするため。また、枯死木の年輪調査により、森の履歴を明らかにする
北海道大学	屋久島の異なる標高における原生的森林の動態
日本離島（・極地）の螢探検隊	日本（屋久島）のホタル科昆虫調査、屋久島における分布生態の解明（ゲンジボタル、

代表者所属	入林目的
	ヘイケボタル、オバボタル、オオオバボタル、ヤクオオバボタル、クロミナミボタル、クロミナミボタル屋久島亜種その他)
特定非営利活動法人 マングローバル	マングローブ植物をモデルにしたエピゲノム研究手法の確立を目指すため、DNA解析に必要なメヒルギ(学名: <i>Kandelia obovata</i>)の葉のサンプリング
東北大学 農学研究科	屋久島固有の植物の採集調査
東北大学	腐朽の進んだスギの倒木から電気ドリル(直径9mm)で材サンプルを採取
東京農業大学	ゾウムシを中心とする屋久島の昆虫相の解明
東京都立大学	シダのオシダ科に関する研究のための材料の採集
東京都市大学 理工学部自然科学科	糞生菌調査に係るヤクシカ、ヤクシマザルの糞採集
東京都市大学	糞から発生するきのこ(糞生菌)調査のためのヤクシカ糞採集
東京大学大学院 理学系研究科附属植物園 小石川植物園	シダ植物の系統分類学的研究のため、登山道沿いで調査して、対象植物を観察、または採取 対象植物: ヤクシマキジノオ、ヒメキジノオ、ハンコクシダ、イブダケキノポリシダ、キレハキノポリシダ、オオバミヤマノコギリシダ、タカサゴキジノオ、キジノオシダ、ホソバコケシノブ
東京大学大学院 農学生命科学研究科森林科学専攻林政学研究室	屋久島国有林内(軌道跡、登山道周辺)に現存すると考えられる文化・歴史的遺構確認調査
大阪市立自然史博物館	1.ヤクシマシオガマ等植物の訪花昆虫確認のためのビデオ撮影の実施、2.ヤクシマシオガマ、ノギランの蜜量調査および自殖確認のための袋がけ調査の実施、3.ヤクシマシオガマ等植物の訪花昆虫調査及び花形態、蜜量の測定
大阪公立大学附属植物園	ヤクシマカラスザンショウの種子と枝(あれば実生)の採取
静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター	ニホンザルの昆虫食が枯死木分解速度にあたる影響に関する調査
神戸大学大学院 理学研究科生物学専攻生物多様性講座生態・種分化分野	菌従属栄養植物の分類・生態学的研究
新潟大学 佐渡自然共生科学センター	屋久島におけるサツキの生態調査(サツキの生息環境を調べるために、温湿度計とトレイルカメラを設置・回収する。サツキの遺伝的多様性を解析するために枝の先の葉のサンプリングを行う。)
鹿児島県立国分高校	葉上に着生するカビゴケ <i>Leptolejeunea elliptica</i> の研究に当たり、屋久島での分布に関する基礎データの蓄積及び養分吸収のメカニズムの調査を目的とした採取
鹿児島県立屋久島高等学校	研究活動の一環でドローン撮影
山形大学理学部	シロアリとシロアリの巣に住む好白蟻性生物、およびシロアリの入った倒木の採集
佐賀大学農学部	ラン科植物は生育に必要な栄養分を共生する菌類に依存しており、保全の上で共生菌の解明が欠かせないことから、屋久島に自生するラン科植物の共生菌を明らかにする
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所	ツクシヤマザクラとヤマザクラの形態・遺伝の違いについて調査する/絶滅危惧種ヤクタネゴヨウのモニタリング調査、共生菌類の探索/絶滅危惧種ヤクタネゴヨウと共生微生物の生態的相互作用の解明および越境大気汚染物質の影響評価
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	樹木病害調査
国立科学博物館植物研究部	希少なシダ植物の孢子採取
国立科学博物館	ヤクシマヒロハテンナンショウ、キリシマテンナンショウ、マムシグサの系統分類学的・保全生態学的研究を行うため、遺伝解析用・形態観察用の植物採取および仏炎苞で死んでいる送粉昆虫の採取
公益財団法人 日本モンキーセンター	飼育ヤクシマザルとの比較を目的とした野生ヤクシマザルの生態調査、およびその研修
九州大学 熱帯農学研究センター	土壌動物(アリ類)の多様性調査
京都大学野生動物研究センター(犬山キャンパス)	西部林道地域の在来種の動物相に、外来タヌキが与える直接的・間接的な生態的影響を研究調査するために、トイレ調査、糞の収集、ワイヤーケージトラップを使用したタヌキの捕獲、サワガニと糞虫の検体採取、カメラを設置して観察
京都大学 野生動物研究センター	ニホンザルの生態学的調査ならびに菌類孢子の散布生態調査/屋久島の中・大型哺乳類の生態調査
京都大学 農学研究科森林科学専攻	亜熱帯雨林における森林の回復速度および樹種組成変化を評価する。具体的には、毎木調査を行うとともに、リタートラップ法による葉の生産量評価を行う。またドローンLiDARにより、森林の三次元計測を行う。

代表者所属	入林目的
京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	日本猿の交尾期におけるグルーミング行動に関する学術調査
京都大学大学院	森林樹冠の構造を、ドローンに搭載したレーザースキャナー (LIDAR) を用いることで定量する。
京都大学 生態学研究センター	ニホンザルの個体数調査/ニホンザルによる枯死木の破壊に関する調査/ニホンザル、ニホンジカ、ヤマビルの調査
京都大学	研究のための野生ニホンザルの野外観察調査
学校法人 東京環境工科学園 東京環境工科専門学校	2年生の野外実習の一環として実施する動植物観察
屋久島生物部	ヤクシカライトセンサス/ヤクシカ糞塊調査
屋久島照葉樹林ネットワーク	希少野生動植物種分布調査と保全、ヤクタネゴヨウモニタリング (マツ枯れ対応含む)
屋久島環境文化研修センター	当財団主催の事業及び受入事業での屋久島の動植物調査。また、SSH等の研究目的
茨城大学 食生命科学科	屋久島に自生する植物体、土壌、水の採取
一般社団法人 屋久島アカデミー	コケ、地衣類、ヒカゲノカズラ類の調査・撮影
バイオマス資源開発合同会社	オオシロアリの採集及びオオシロアリが営巣する枯木の一部を回収
NPO 行徳自然ほごくらぶ	学術調査 (屋久島高山帯におけるオサムシ科甲虫相の解明)、屋久島の高山帯におけるオサムシ科甲虫相の解明を目的とした採集調査
個人 (3件)	学術、分布調査 (昆虫) /屋久島における昆虫相 (主にタマムシ科甲虫) の把握/水生昆虫類の採集

●国または地方公共団体

申請者所属	入林目的
一般財団法人 自然環境研究センター	環境省より受託した令和5年度屋久島における希少植物の生育状況調査等業務
一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	道路整備事業に伴う動物モニタリング調査、現地踏査及びセンサーカメラ設置に伴う林内への立入り
一般社団法人 日本森林技術協会	九州森林管理局「屋久島世界自然遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査等委託事業」及び「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業 (屋久島地域)」業務遂行のため/九州地方環境事務所「令和5年度屋久島国立公園宮之浦岳縄文杉線歩道 (花之江河) 流水分散対策実施計画検討業務」遂行のため
屋久島山岳ガイド連盟	令和5年度屋久島国立公園避難小屋周辺利用状況調査等業務
株式会社 一成	環境省発注の「令和5年度屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策推進業務」における、糞粒・糞塊法調査の実施及びSS体制によるヤクシカの捕獲作業の下見及び実施
株式会社 九州自然環境研究所	一般社団法人 日本森林技術協会から再委託された、九州森林管理局「令和5年度屋久島南部地域の垂直方向の植生モニタリング調査」における森林調査
株式会社 南日本技術コンサルタンツ	環境省委託業務による大王杉周辺地質調査
株式会社 野生動物保護管理事務所	指定管理鳥獣捕獲等事業に関する実施計画の策定に必要な調査 (糞粒調査)
環境省屋久島自然保護官事務所	マツ枯れ病による枯死木の伐倒及び処分の実施/国立公園区域の巡視等
環境省環境管理課	「越境大気汚染・酸性雨長期モニタリング計画」に基づき、国内の大気、植生、土壌、陸水の各分野でのモニタリング (今年度は目視調査のみ)
大福コンサルタント株式会社	鹿児島県 PR 観光課発注の大王杉迂回路設計において、大王杉木橋付近の地質調査

2. 広報活動

(1) 広報誌「洋上アルプス」の発行

●作成の趣旨

当保全センターの業務紹介や活動報告、屋久島の雨量観測データなどの情報を提供することにより地元施設や関係機関との密接な連携を図っている。また、屋久島の生態、森林の役割、自然と人との共生のあり方などに関する普及啓発を行うとともに、屋久島世界自然遺産地域内での保全活動を紹介し、広く一般の理解と協力を深めるために作成している。

●構成 A4版4ページ (A3二つ折り小冊子)

●発行日 毎月5日発行 (令和5年10月まで) 奇数月5日発行 (令和6年1月から)

●発行部数 約8000部/年



掲載記事

No.337 ◇令和4年度ふるさとセミナー「forest day～森と人がつながる1日～」へ参加

(4月) ◇荒川登山道定期安全点検を実施

◇令和5年度 屋久島森林生態系保全センター業務計画

◇4月1日人の動き

【研究者コラム】「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ⑥ ～人と森をつなぐ～ 屋久島の森を感じる楽器づくり

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査 (令和3年度)

【グリーンサポートスタッフ (GSS) 巡視記録より ～花と景色～】

No.338 ◇令和5年度を迎えるにあたって

(5月) ◇当保全センター職員の紹介

◇縄文杉周辺の低木剪定を実施

◇屋久島自然休養林 利用者 令和4年度

【研究者コラム】サツキは溪流植物なのか?-サツキとの出会い-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査 (令和3年度)

【グリーンサポートスタッフ (GSS) 巡視記録より ～花と景色～】

No.339 ◇令和5年度 屋久島世界遺産地域連絡会議開催

(6月) ◇令和5年度 縄文杉周辺マナー指導を実施

◇中央中学校で森林教室を実施

◇令和5年度屋久島世界自然遺産地域等モニタリング調査概要

【研究者コラム】サツキは溪流植物なのか?-サツキの分布と特徴-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査 (令和3年度)

【グリーンサポートスタッフ (GSS) 巡視記録より ～花と景色～】

No.340 ◇令和5年度シャクナゲ開花時期における登山指導

(7月) ◇屋久島世界遺産地域連絡会議第1回幹事会・検討の場を開催

◇地元中学生が職場を体験学習

◇屋久島高校に学校登山の事前指導を実施

【研究者コラム】サツキは溪流植物なのか?-サツキは山頂にあった!-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング (令和3年度)

【グリーンサポートスタッフ (GSS) 巡視記録より ～花と景色～】

No.341 ◇令和5年度 第1回 屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカ WG 合同会議を開催

(8月) ◇鹿児島県・九州森林管理局・県下森林管理署意見交換会開催

◇令和5年度 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会の開催

◇西表森林生態系保全センター職員が来所

【研究者コラム】サツキは溪流植物なのか？-二刀流の生活史戦略仮説-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

No.342 ◇夏休み期間中の森林パトロールを実施

(9月) ◇台風6号被害状況について（ヤクスギランド、西部林道）

◇林業遺産現地検討会

◇令和4年度「年報」を発行・ホームページに公開しました

【研究者コラム】屋久島の山々とカタツムリたち（その1）

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

No.343 ◇令和5年度インターンシップの受け入れ

(10月) ◇琉球大学と森林調査を実施

◇大分舞鶴高等学校が毎木調査及び植生調査を実施

【研究者コラム】屋久島の山々とカタツムリたち（その2）-屋久島の高山地帯で暮らす固有カタツムリの食生活-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

No.344 ◇令和5年度 松枯れ対策連絡協議会を開催

(12月) ◇神山小学校で森林教室を実施

◇屋久杉巨樹・著名木の再調査を完了

◇令和5年度 林業・技術交流発表大会

◇屋久島世界自然遺産登録30周年記念シンポジウム開催

【研究者コラム】屋久島の山々とカタツムリたち（その3）-屋久島の高山湿地に生息する米粒サイズの二枚貝-

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度）

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

No.345 ◇森林環境の保全と木材利用の両立に向けて

(1月) ◇新年を迎えて

◇西表森林生態系保全センターとの意見交換

◇花之江河に堰設置

◇安房中学校で森林教室を実施

◇屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会及び検討の場を開催

【屋久島生態系モニタリング】屋久島東部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和3年度） 衰退樹木等のモニタリング

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

No.346 ◇屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカ WG 合同会議を開催

(3月) ◇屋久杉巨樹・著名木調査のデータと3D画像をホームページに公開

◇中央中学校で2回目の森林教室を実施

◇榕城小学校で森の学習会を開催

◇令和5年度やくしまフォレストデーへ参加

◇屋久島主要箇所2003年雨量データ

【研究者コラム】「ヤクスギ林固定試験地より」 ①小花山

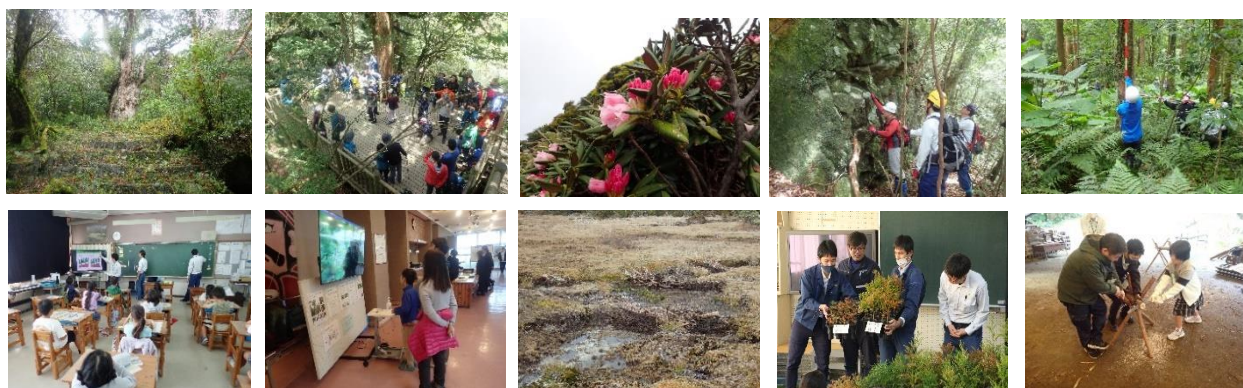
【屋久島生態系モニタリング】湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討（令和3年度） 小花之江河における植生保護柵設置後の植生回復調査

【グリーンサポートスタッフ（GSS）巡視記録より ～花と景色～】

(2) ホームページの更新

●令和5年度のトピックス

令和5年04月14日	縄文杉周辺の低木剪定を実施
令和5年05月01日	令和5年度縄文杉周辺マナー指導を実施
令和5年05月17日	中央中学校で森林教室を実施
令和5年05月18日	令和5年度 屋久島世界遺産地域連絡会議開催
令和5年05月23日	地元中学生が職場を体験学習
令和5年05月29日	令和5年度シャクナゲ開花時期における登山指導
令和5年06月06日	屋久島世界遺産地域連絡会議第1回幹事会・検討の場を開催
令和5年06月20日	屋久島高校に学校登山の事前指導を実施
令和5年07月12日	鹿児島県・九州森林管理局・県下森林管理署意見交換会開催
令和5年07月12日	令和5年度屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会の開催
令和5年07月13日	令和5年度第1回屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催
令和5年07月24日	西表森林生態系保全センター職員が来所
令和5年08月24日	林業遺産現地検討会
令和5年09月04日	令和5年度インターシップの受け入れ
令和5年09月11日	琉球大学と森林調査を実施
令和5年09月29日	大分舞鶴高等学校が毎木調査及び植生調査を実施
令和5年10月03日	令和5年度松枯れ対策連絡協議会を開催
令和5年10月23日	神山小学校で森林教室を実施
令和5年11月01日	令和5年度 林業・技術交流発表大会
令和5年11月13日	西表森林生態系保全センターとの意見交換
令和5年11月25日	屋久島世界自然遺産登録30周年記念シンポジウム開催
令和5年11月28日	花之江河に堰設置
令和5年12月05日	安房中学校で森林教室を実施
令和5年12月06日	屋久島世界遺産地域連絡会議第2回幹事会及び検討の場を開催
令和6年01月12日	中央中学校で2回目の森林教室を実施
令和6年01月30日	榕城小学校で森の学習会を開催
令和6年01月31日	屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催
令和6年02月18日	令和5年度やくしまフォレストデーへ参加



これらのほかにホームページにはたくさんの情報が掲載されているのでぜひご覧ください

九州森林管理局 HP > 森林管理局の案内 > 森林管理署等の概要 > 屋久島森林生態系保全センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/





令和6年7月

林野庁 九州森林管理局 屋久島森林生態系保全センター

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 1577-1

TEL 0997-42-0331